

# かぼちゃ管理情報（トンネル管理と除去後の管理）

令和2年5月

日頃は、部会活動にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

例年、定植後の管理を中心に栽培講習会を行っておりましたが、現在新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、管理情報の送付により代替措置とさせていただきます。

なお、新型コロナウイルスが終息いたしましたら、講習会等を開催していきますので、ご了承の程よろしくお願い致します。

## ポイント



- ・定植直後：液肥の株元かん注による活着の促進
- ・生育初期：トンネル内の高温対策（水分保持と穴あけ換気）
- ・生育中期：強めの草勢管理 着果節の葉幅は目標35cm  
※干ばつ時のかん水
- ・開花期：人工授粉による早期の着果  
(ミツバチが訪花しにくい5月末～6月上旬)
- ・肥大期 台座敷きによる、秀品率の向上（果実がソフトボール大の頃）
- ・収穫期 草勢維持と果実の日除けによる、日焼け果対策

## 生育適温と気象

### ①生育別の適温

- ・発芽：15～35℃、適温25℃
- ・生育：気温 22～23℃  
地温 17～20℃
- ・育苗：昼 20～25℃  
夜 15～18℃

### ②高温障害が発生する温度 35℃以上

## 平年の輪島の気温

月	旬	平均(°C)	日最高(°C)	日最低(°C)
4月	上旬	9.2	14	4.1
	中旬	11	15.9	6
	下旬	12.8	17.8	7.7
5月	上旬	14.8	19.6	9.9
	中旬	15.4	19.8	10.9
	下旬	16.9	21.5	12.3

※近年は5～6月の高温干ばつによる影響で草勢低下、着果が不安定となっている。

気象庁の3か月予報は、気温は平年並み～高め、降水量はほぼ平年並みの見通し。

●5月3日～7日はかなりの高温が予報されている（平年比+2.4℃以上）ので注意する。

・雌花は低温で花芽が分化し、高温で花飛びする。

## 1. 定植前の土壌管理

- (1) 適度な水分状態で耕起し、砕土をしっかりと行う。（定植後の活着促進）
- (2) 土壌が湿った状態でマルチを被覆する。  
(マルチ内の水分が不足する場合は、定植数日前にマルチ内へかん水しておく)
- (3) 大雨に備え、排水溝を設置しておく。（草勢低下の抑制）

## 2. トンネル管理

○霜が予想される場合は、夕方早めに古ビニールや不織布をかける。  
定植直後に液肥を株元にかん注し、トンネルを被覆する。



### (1) ポリトンネル

①活着促進のため定植後5日程度は密閉し、土壌水分によりトンネル内を十分曇らせ、葉焼けを防ぐ。

※曇りが不足する場合は、トンネル内（マルチ上）にかん水する。

②換気（気温上昇に応じて早めに換気し、外気に順化させる。）

・最初の穴あけは、外気との気温差がない朝夕の涼しい時間帯に行い、風下側斜め45度の角度で2株おきに直径12cm程の換気穴をあける。

（最初に上部に開けると温度や水分を一気に逃がしてしまう）。

・換気開始後は、トンネル内が30℃以上にならないよう、また、換気穴を空ける作業は、日中トンネル内が高温となる時間帯をさけ、朝、夕に行う。

③生育すると葉が換気穴を塞ぐため、日中はトンネル上部が曇らないように換気穴を増やし、株の軟弱徒長を防ぐ。

注)

・定植直後から高温（夏日）が予想される場合は、換気を早める。

・活着前の控えめな穴あけは、かえって葉焼けを助長してしまうので、注意する。

・週間予報で最高気温20℃以上の日が数日見られるようなら、換気を早める。

・小型トンネルは高温障害が出やすいので、場合によっては定植直後から換気を始める。

・定植後に親づるを摘心する場合は、最初の穴あけ時に行う。

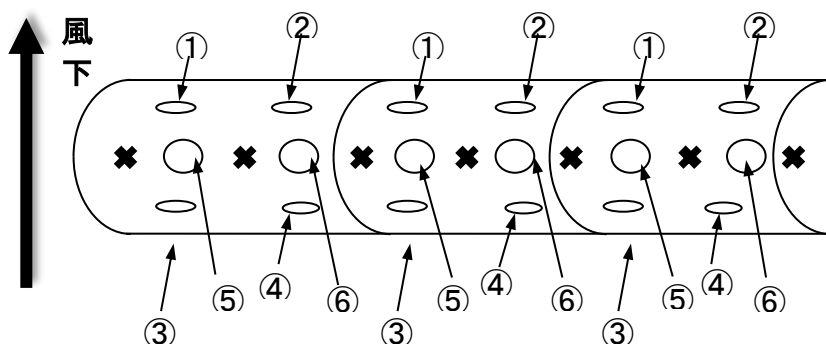


図 トンネルを上から見た様子

### 【穴開け目安】

①1回目

（2株おきくらい）

②2回目、③3回目

④4回目、⑤5回目

⑥6回目

※これ以降は生育に合わせて、できるだけたくさん開ける。

◆ カボチャ苗

### (2) 不織布トンネル

穴あけは不要だが、SUPERアイホッカ#20は保温効果が非常に高いため、急に高温になった場合はめくり上げる等の換気が必要になる。

### 3. 追肥（1回目）とトンネル除去（要確認！根がどこまで伸びているか？）

（1）根を切らないように、早めの追肥（5月上～中旬）

- ・子づるが30～40cmに伸びた頃、トンネルの両側1m幅に施用し、根を切らないよう浅く中耕する。

（2）トンネル除去

- ・最低気温が10℃以上（輪島平年5／8～）に安定した頃にトンネル除去を行う。
- ・ポリトンネルは除去2～3日前には穴だらけとなるよう換気量を増やし、外気に慣らす。

（3）敷きわら

- ・追肥位置に稲わら、または刈り倒したライ麦を敷き、子づるを早期に固定させる。
- ・敷きわらが無い場合は、バインダーの紐などを畝と平行に張っておく。

（4）整枝

- ・そろった子づるを3本または4本残り両側に配置する。
- ・8節以下の雌花や幼果、着果節（目標10～15節）付近までの孫づるは早めに除去。

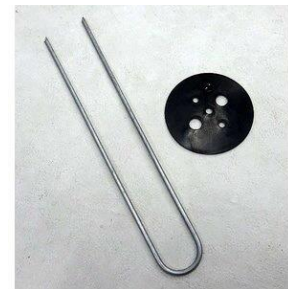
### 4. 草勢管理

（1）マルチ内の土壌が乾いたら適宜、水をかん注する。（トンネル除去前～子づる伸長期）

（2）着果節の葉幅は35cmを目標とする。

（3）風害対策（株元・子づる固定）→「ヘアピン杭」で株元固定

ヘアピン杭、長さ30cm →  
（黒い輪とピンは別売り）



（4）高温乾燥時は液肥300倍の葉面散布で葉色を濃く保つ（うどんこ病予防にも有効）

（5）果実肥大～成熟期は、うどんこ病、褐斑細菌病（登録剤はZボルドー）を防除する。



【着果期の適正な草勢（2016.5月末）】

〔着果節の葉幅35cm、株元の痛みは少ない〕

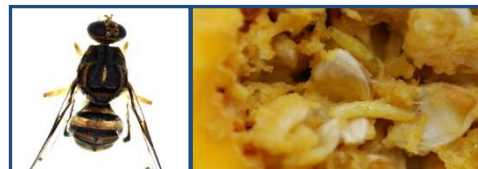
## 5. 着果管理

- (1) 10～15節を目処とし、雌花の開花が揃ったタイミングで一斉に着果させる。  
旧盆（8月15日）までに出荷するには「6月20日」頃までの着果が目安
- (2) ミツバチの活動が鈍い場合は人工受粉を行う。人工受粉は朝5時頃から花粉の有無を確認し9時までに終わる。（以降は花粉の活力が低下する）  
人工交配は花粉を雌花の柱頭にまんべんなく付ける。（1本の雄しべで4花程度受粉可）  
なお、花粉は乾燥や水分に非常に弱いため、雨天や日中は受粉作業を行わない。



## 6. カボチャミバエ

成虫は体長13～10mmの比較的大型のミバエで、雌は着果後の幼果に産卵する。幼虫は黄色い蛆<sup>うじ</sup>で果実内部を食害するが腐敗や落果に至りにくい。果実内部が食害されても、外観が健全果とほとんど変わらないので、出荷されるとクレームが発生する。



着果期にウリハムシの防除を兼ねて、モスピラン顆粒水溶剤を散布する。  
（登録内容：2000倍 収穫前日まで 2回以内）

**万一、被害果を発見した場合はそのまま廃棄せず地中に埋め、新成虫の拡散を阻止する。**

自然界ではカラスウリに寄生する。